

新しいごみの最終処分場、3月に完成

分別にご協力をお願いします



▲建設中の最終処分場。テント張りの屋根が付いています（昨年11月）



▶市街地から東山方面に見える外観

環境施設課 ☎24・28338
環境業務課 ☎24・28337



「生ごみと燃やすごみを分けるのはなぜ」。日々ごみを出す中で、こう思う人も多いのではないのでしょうか。

答えは、「長岡が全国に先駆けて、生ごみを全て資源にしているから」です。

市は、ごみの資源化と減量化を進めています。みなさんの分別で燃やすごみの量は減り、生ごみバイオガス発電センターでは、生ごみが電気を生み出しています。

新しい処分場を、分別で長く使う

3月には新たな一般廃棄物

最終処分場が完成します。最終処分場とは、焼却灰や資源にならないごみなどを、法律に基づき安全に保管する施設です。市内には柿、鳥越、栃尾、小国の4カ所があります。これらの容量が残りわずかとなったため、柿処分場内に新たな埋め立て施設を整備しています。事業費は約37億円。4月以降、柿処分場がいつぱいになり次第稼働します。

正しい分別がさらに進めば、ごみの量が減り、施設をより長く使うことができます。引き続き、ごみの分別にご協力をお願いします。



施設内部のイメージ

最新技術を採用!

新しい処分場ここがスゴイ!

- ▶屋根を付けて、廃棄物の飛散を防止
- ▶埋め立てた部分から土をかぶせ、屋根を移動
- ▶施設から出る水は、川ではなく下水道へ放流

生ごみを100%資源に

生ごみを発酵・分解し、発生するガスで発電する生ごみバイオガス発電センター（寿3）。発酵残さ（残りかす）も燃料として民間に売却し、生ごみを100%資源にしています。平成25年の本格稼働からおよそ7年。みなさんの日々の分別が着実に成果を出しています。

燃やすごみ2割減

令和元年度に家庭から出た燃やすごみの量は52,020トン。同センターが稼働する前（平成24年度）の67,571トンと比べて、約2割減少しました。

600世帯分を発電

バイオガスによる発電量は、令和元年度で年間246万キロワット。一般家庭の約600世帯分に相当します。そのうち約9割を電力会社に売電。得た利益を同センターの管理に充て、維持費を年間約3,800万円節約しています。

電気自動車無料で充電

発電した電気を利用した電気自動車用の急速充電器を、同センター内に設置しています（写真）。利用は午前8時から午後8時まで。1回の充電時間は30分。無料です。



コツを教えてくださいました! 家庭ごみの分別お得に簡単に

「ごみの分別が大切なのはわかったけど、実際どうすればいいの」。ごみを減らすちょっとした工夫や、お得で簡単にできる分別のポイントを、日々実践している家庭に伺いました。



分別の工夫を紹介してくれた大竹さん一家。外出時に使うマイボトルと一緒に。

大竹祐介さん
綾子さん
優菜さん
倅太郎くん
絢菜さん

①生ごみは「超極小」も便利

極小サイズ
超極小サイズ

大きさは「極小」の袋の約半分ほど。生ごみが多く出ない世帯にピッタリですよ。

②食材は余すことなく

野菜くずはスープに
大根の皮の漬物

食材の有効利用で、生ごみと買い物量を減らそう。

③ごみ箱は色を変えて

燃やすごみ
びん・缶・ペットボトル
プラスチック容器包装材

ごみ箱の位置は生活動線に沿って。色を変えて、子どもも簡単に分別♪

知ってた? 生ごみの袋は、燃やすごみの袋より30円安いです（小サイズ・10枚入り）。分別するほど経済的です。

知ってた? 長岡市のごみの分別数は、県内30市町村で4番目に少ないんです。処理の効率化などみなさんの負担を小さくしています。